

新 名 誉 会 員 三 氏 (海 外) の 略 歴

Prof. John Chipman

1897年フロリダ州タラハッセーに生る。1920年テネシー州セワニー、ユニバーシティ・オブ・ザ・サウス卒業。在学中軍隊に入り砲兵中尉となつた。大学卒業後アイオワ州立大学、イリノイズ、ウエスレアン大学、カリフォルニア大学等に教鞭を執り又、ミシガン大学研究員、アメリカ、ローリングミル会社副研究所長を勤めた。1937年にはマサチューセッツ工業大学冶金学教授、1943年にはシカゴ大学冶金研究所冶金部長、1946年にはマサチューセッツ工業大学冶金部長となつた。1940年に理学博士の学位を受け、1955年にナショナル・アカデミー・オブサイエンスの会員に選ばれた。この間アメリカ金属学会の監事、副会長、会長となり、同教育研究財団理事長を勤めた。

又1934年アメリカ金属学会より Howe Medal を受けたのを初めとして内外の学、協会、アカデミー等より数多くの賞牌を贈られ、A.I.M.E. の Howe Memorial Lecture その他の記念講演を行つた。

Prof. T. L. Joseph

1894年ユタ州アダムスヴィルに生れ、1916年ユタ大学卒業。1919年より36年まで鉱山局に勤務し、数多の官職を経て後、鉱山局北部中央試験所監督技師に任ぜられ鉄鉱の粒度調整その他の研究について功績があつた。

1936年ミネソタ大学冶金学部の教授兼部長に就任、又1944年より55年までミネソタ工業大学副学長並びに鉱山冶金学校校長の職に在つたが、著述及び研究に専念する為め現在は専ら冶金学教授の職にある。

1927年には A.I.M.E. より Johnson Award, 1937年には Hunt Award を受け、1946年には Howe Memorial Lecture を行つた。又 A.I.M.E. の鉄鋼部会長を勤め、又理事の職に在つたが最近高炉、コークス炉及び原料の各委員会の終身委員に推薦された。

教授は又独乙、瑞典、ベルギー、オランダ、英国の鉄鋼工場を視察し、1951年には日本に4ヶ月の間滞在して鉄鉱石の調整及び高炉作業の問題を研究した。

教授には鉄鉱石の還元、銑鉄の除硫、回鉱その他高炉操業及び原料に関する数多くの論文がある。最近の研究はペレタイジング及び焼結等についてのものである。

Prof. Herman Schenck

1900年、大学教授(化学) Rudolf Schenck 氏の一子として生れた。ミュンスタア大学、ブレスラウ工科大学並びにアーヘン工科大学に学び、1923年に Diplom-Ingenieur となり後工学博士の学位を受けた。1927年には Oberhoffer 教授附助手となつたが、翌28年にクルツプ株式会社に入り37年まで技術研究所員兼製鋼工場長として勤務し、1937年ゾーゲン州シャーロットテン製鋼所長に転じ、42年までその職に在つた。1942年より1951年までボーフォーム製鋼工業協会会長、又50年以来独乙鉄鋼協会会長の任にある。又1951年にはアーヘン工科大学鉄鋼部門担任教授に任ぜられ現在に至つている。著書に“鉄鋼生産過程における物理化学入門書”(Einführung in die physicalisch Chemie der Eisenhüttenprozesse, 1932年第1巻, 1942年第2巻発行)があり、英、伊語に訳されている。嘗て米、英、仏の諸国にも学んだことがあり、本年3月八幡製鉄株式会社の招聘に応じて日本に来朝した。